

縁射

ゴールデン
ウィークに韓
国に兄を訪ね
た。一家と夕
食をともしし

ながらテレビを見た。朝
鮮半島が日本の統治下に
あった時代の物語であっ
た。

見ているうちに、日本
人の警官らしい悪役が出
てきて、料理屋で乱暴を
したり、酔って女性にか
らんだり、という場面に
なった。

それまでは皆で楽しく
見ていたのに
「別の番組の方
がおもしろい
よ」といって韓
国人の兄嫁はチ



ヤンネルを変えた。

彼女は日本人である私

に気を使ったのだらう。

その意味が理解できない

子供たちは、一斉に口を

とがらせた。身の置き場

のないやるせなさを、私

は禁じ得なかった。

私にとって、このよう

『民間外交』

は、第二次大戦中、日本
親友は、ある所まで進む
と急に押し黙った。

軍がシンガポールのイキ
リス軍に無条件降伏をせ

まった交渉の模様などで
「外に出よう」と私を

促して足早に出口に向か
った。その先の文章に

だれも声を発しなかつ
た。外に出た時、私のシ

ャツは冷や汗でぬれてい
る。個人レベルでは、ど

台湾には大の親友がい
る。彼と台北市内の第二

次大戦の犠牲者を祭った
記念館を見に行ったとき

のこと。ここは衛兵の交
代行事があることでも有

名で、大勢の日本人が来
ていた。中国語で説明が

書かれている。私のため
に日本語で説明を始めた

は、理解しあうにはまだ
時間がかりそうだった。

NGOの活動は、この
難問を解くための民間外

交になり得ると、信じて
いる。

(小林 米幸 A M D

A・アジア医師連絡協議

会日本副代表)

た。
サ島へ出かけ
た。
蟻人形館に陳
列されていたの